

あすなろ

第32号

発行 弘前大学教育学部同窓会
〒036-8560 弘前市大字文京町1
TEL. 0172 (36) 2111 代表
編集事務局(仮事務局)
弘前市樹木四丁目1の24
葛西恒雄
TEL. 090-6781-4463



弘前大学教育学部同窓会会長 鈴木 弘

対話を工夫したい

去る六月の定期総会において、
ならずも会長に推薦されました。自
分の力不足等を思うとき、いささ
かのとまどいもありましたがお引
き受け致しました。

まずは、なんとと言っても木村前
会長をはじめ、会員の皆さんのご
指導とご協力をいただかなければ
なりません。また、昆学部長をは
じめとする学部教職員のご指導を
いただきながら一歩でも前に進め
ていけるよう努めたいと思ってお
ります。

同窓会にもいくつかの課題があ
るように思いますが、私は基本的
に「対話」を工夫したいと思っ
ております。具体的には、学生たち
との会話の機会を設け、語り合う
中で「同窓会の周知」を図りたい
と思っております。また、学部教
職員の皆様とも可能な範囲で語り
合い、情報を共有し、相互の理解
を深められれば良いと願っており
ます。去る十二月の「同窓会と学
部懇談会」の際の学部側の誠意あ
る姿勢には心打たれるものがあり
ましたし、同窓会の皆さんも、そ

れこそ素直に、率直に伝えてい

「なんだかいい時間を過ごさせて
いただいた」ように思いました。
こういう雰囲気大切にしていき
たいと思っております。三つ目に
は、当然のことながら会員の皆さ
んの声を少しでも多くお聞きした
いと思っております。それが会議
であれ、私的なものであれ、その
形にはあまりとらわれなくてもい
いかなと思っております。

唐突ですが、校舎改築はほぼ順
調に進んでいるようであります。
二期工事はこの三月末、三期工事
は来年の三月末を目指して頑張っ
ているようであります。

ところで、その校舎の一隅にで
も「同窓会事務室的な場所を確保
できないか」と以前から学部側
にお願いをして参りましたが「前向
きに検討している」というニュー
アンスの言葉を耳にしたりしてい
ます。是非実現していただきたい
と、改めて、強くお願い申し上げ
ます。



教育学部長 馬場 正博

教育学部の近況

① 就職状況

学生諸君と就職対策委員等の頑
張りで、教員採用試験の現役合格
者が増加しました。特に、青森県
と北海道が増加しました。また近
年、公務員の採用も増加傾向にあ
ります。

② 校舎改修

第一期工事が完成しました。主
として教室の改修が行われ新しい
教室が使用できるようになりました
が、現在は第二期工事のために、
研究室等に一時使用しています。
補正予算で、三期工事が認められ
ました。一部新築部分を含みます。
中庭の整備等を学生と同窓会の皆
さんと相談しながら進めたいと思
っています。

③ 教員養成課程の入試改訂

学校教員養成課程において、実
践力に加えて、教科の専門的な指
導力を高めるために、教科別の入
試を導入しました。

④ ホームページの改訂

教育学部のホームページを専門
の業者に依頼し新しくしました。
点検しながらさらに良いものにし
ていきたいと思っております。ぜひ
ご覧になってください。

⑤ 教育実習体制整備

教育実習の体制を整備強化して
います。これには、計画の段階か
ら附属学校の副校長等の関係教
員も参加し、よりよい計画作成に

努力しています。この仕組みを教
育実践総合センターの部門として
配置する計画です。新たな計画で
は、教育実習を各分野ごとに担当
する教員の任期を長くし、専門性
を高めて問題に迅速に対応できる
仕組みを構築します。

⑥ 附属学校園

附属学校教員の教育・研究の仕
事の内容等をまとめた附属学校の
教員の募集案内を作成しました。
これにより、附属学校の教員の仕
事を多くの人に知ってもらおうと
もに附属への興味を高めてもらい
たいと思います。また、附属学校
教員と附属学校教員経験者に対
して、優れた研究歴を有する者に
対して一年で大学院を修了するこ
とができる制度の導入を進めてい
ます。

附属学校に学部と大学院の優秀
な卒業生を臨時教諭として採用し、
附属学校の教育の充実と学生の卒
後支援を強化しています。これを
さらに拡大する予定です。

⑦ 教育力向上プロジェクト

「ラボ・パスを用いた教育実践」
の予算が継続して認められました。
平成二十二年度は、二十三の事
業が実施されています。ホームペ
ージに詳しい内容がありますので
ご覧ください。

学生・教職員ともに頑張ってお
りますのでご支援ください。

学生から一言

文化祭の意義

教育学部四年 工藤 朱美

文化祭というと、学生によるサ
ークルの出し物や、各学部の展示
企画を思い浮かべる。学生のエネ
ルギーが高まるという認識が一般
的ではなからうか。一方で、私は
文化祭は誰のために何のためにあ
るのか、という疑問を感じていた。

大多数の学生が、所属するサーク
ルやゼミの企画に携わるなか、私は
ガラスハーブアンサンブルのメン
バーとして演奏を行った。すると、
『大学はずこいね』と口々に話す一
般の方々や、物珍しそうに興味津
津な子ども達で溢れた。関心を抱い
てもらえた喜びとともに、地域住民
が大学の知的財産に触れる大学開
放の機会として、文化祭は活用され
るべきだとこの時感じたのである。

大学の有する知的財産は、広く
地域社会に対して提供されるべき
であり、それは本大学の創造力及
び発信力として、地域への貢献と
なっていくであろう。卒業生とし
て、再び訪れるのが楽しみな文化
祭であり続けてくれる事を願う。





会長退任にあたって

教育学部同窓会前会長 木村 清之助

平成二年に第三代会長に選任されてから二十年になり、この度ようやく退任することになりました。

選任されてから大きな式典や事業の連続で退任の機を逃してきました。本同窓会は教育学部の支援を目的として創立されましたが、大学創立五十周年記念事業推進を機に、全学同窓会が創立されました。これによって他大学では例を見ないような大きな事業式典が開催されました。教育学部としては、

学部の前身である青森師範学校の創立百三十周年記念事業があり、記念碑の設立と式典を行いました。主な活動を挙げましたが、これらは同窓会の皆様からの大きな支援があつて成功しました。また大学の根幹に関わる法人化という大きな変革に教職員一体となつて取り組んで、着々と成果をあげており、そのご努力に敬意を表する次第です。

この二十年間の学校現場を見ますと、これまた大きな変化が見られます。社会の変化に対応する改革は当然でしょうが、昔の約十年毎の教育課程の改定から見るとどうでしょうか。現在は「ゆとり教育」に見られるような、朝令暮改的な改定がなされ、そのつど先生方のご苦労を見聞する度に胸が痛みます。あの時すでに外国であのような教育をしたがあまりにも学

力が落ち、国の滅亡論など出る社会問題化し、結局「基本に帰れ」ということになっていました。

日本でも小学校一年生が三十五人学級になりそうで、ようやく他の先進国に半歩近づきそうです。教育内容・方法と共に教育条件や環境の整備がなされないと本当の「生きる力」が育たないのではないのでしょうか。

ところで小生の関わつた英語教育ですが、今でも心が痛むのは、小学校から塾で勉強してきた生徒が一年生の頃は上位ですが、二年生後半になるとABCから始めた生徒に追い越され、三年生になると当時あつた色々なコンテストに代表となる者の多くはABCから始めた生徒でした。これは小生の指導のまずさもあつたと思います。中学校側に指導体制ができていなかつたことにもよるのではないかと考えられます。言語習得の最も大事な時代と言われる中学時代の継続的な教材や指導体制はどうなるでしょうか。単に早期に英語を始めればよいと言うような論議が先行しているように思われます。

勝手な私見を述べましたが、先生方は大変な環境の中で教育に取り組んでおられ、本当にご苦労様です。子ども達は誰もが将来社会という荒波を航海しなければいけ

ません。その動力と羅針盤は、「知・徳・体」だと思えます。また世界に通用する人間は「人柄と何ができるか」だといわれます。学校教育は家庭教育との連携の下にこれを育てる場です。どうぞこの点を父母にも理解してもらい頑張ってください。

この二十年間ご協力ありがとうございました。



大切にしたい出会い

教育学部同窓会監事 岡元 淳一

三十八年間の教員生活を終えた

年、教員養成学開発センターの非常勤講師の依頼があり、学校サポーターの学生さんたちと二年間の交流を持つことができました。同窓生として先輩として、教員を志望する後輩との関わりを持ってたこととても感謝しています。

私が学んだ校舎は相当古くなつてはいましたが昔と変わりはありませんでした。しかし周りの環境は以前には想像もつかないほど整備されていきました。感動とともに月日の流れを感じさせられました。また、学校サポーターとして前向きに情熱を持って取り組む学生の姿にも感動しました。私の場合はどうだったかなあ；教師を目指した学生の頃が懐かしく思い出されます。

当時と状況が変わり、教員の採用も非常に厳しくなっていますが、できるだけ多くの学生の皆さんが夢を叶え教壇に立つてほしいと願



加藤謙一文庫

うばかりです。

心に残る多くの思い出の中から次の二つのことについて述べたいと思います。

一つは、先輩の先生方に育てていただいた今この私があるということ。最近の学校現場は教員にとつて難題が山積している状況にあります。そのためか、鬱的傾向の教員が増えてきているように感じられます。私たちが若い頃もいろいろなことがありましたが、そんなとき、常に先輩や同僚の存在があり指導や支援、アドバイスをお願いしたものです。このような人間関係を通して挫折することなく初心を忘れずに頑張れたのだと思っています。

最近ではインターネットで情報をいくらでも得ることができるようになりました。先輩から学ぶという面が薄らいでいるように感じます。そのため難題を抱えても孤独の中で悩む教師が増えるという結果になってい

るのではないかと心配されます。その意味でも職場等でのコミュニケーションをもっと大切にしてほしいと願っています。

二つ目は私の趣味、マジックについてです。中学時代からマジックに興味を持ち楽しんでいましたが、本格的にマジックをやるようになったのは大学に入学してからです。数学科の新入生歓迎コンパで先輩がマジックを披露してくれたのがきっかけでした。とても上手で感動を覚えました。更にその先輩からいくつかマジックの道具を頂いたのです。嬉しくてそれ以来マジックのレパートリーが増えていきました。今までに幼稚園からお年寄りまでいろいろな場面で教育マジック、科学マジック、一般的なマジックを行う機会を与えていただきました。マジックは、人と人とのふれあい、コミュニケーションを持つためのきっかけとして確かに役立つということを、今までの体験から実感することができました。これからも人と人とのふれあいを大切にし、夢や希望を与えることができるようなマジックを目指していきたいと思っています。

人と人との出会いは一瞬ですが、その一瞬が人生を変えることもあります。また、その一瞬から一生のつきあいに発展することもあるでしょう。そういう意味からも同窓会の大切さを感じています。母校教育学部の更なる発展のためにも同窓会が今後ますます充実していくことを願っています。



家政教育講座と 家庭科の今とこれから

教育学部家政教育教授 日景 弥生

1. 講座の現状

当講座は、平成六年度大学院発
足時からメンバーに加わった。本
講座には、家庭科の背景学問であ
る家政学の全ての分野の教員がい
ることを、当時そして今も、全国
的にも稀有な存在としてアピール
してきた。現在、当講座には六名
の教員が所属（被服学が欠員）し
ており、各教員はそれぞれの能力
を十分に発揮していると思う。

学生達も、教員の指導のもと、
真摯に教育・研究に励んでいる。
しかし、就職状況は厳しく、中学
校や高校の家庭科教員の募集は地
方のみならず首都圏等でも多くな
く、教員希望の学生達の中には小
学校教員に転向する者もいる。教
員希望ではない学生達は、公務員
や一般企業に就職している。この
“超氷河期”といわれる厳しい状
況の中、当講座の学生たち全員が、
卒業時まで就職が決まっている
（臨採等含む）ことは誇れること
と自負している。

2. 家庭科の現状

家庭科の置かれている現状は厳
しい。時間数や単位数が減少して
いることから、中・高校家庭科教
員は、一学校一人体制が良い方で、
免外教員、臨時採用講師、非常勤
講師などによる授業が常態化しつ
つある。特に中学校では事態が深
刻である。

小学校における家庭科は、おお
むね指導が行き届いているが、中
学校における上記のような指導体
制は、家庭科の発展的な学習を拒
む結果となり、それは高校家庭科
にも影響が及んでいる。

現在、日本家庭科教育学会では
中学校家庭科教員の現状を全国規
模で調査しているが、この現象は
東京都を除く多くの道府県に共通
している。中学校家庭科の学習が
成立しないと、平成元年にやっと
「男女必修」になった高校家庭科
は、その目標を達成することがで
きない。中学校家庭科教員の充足
を切望する。

3. 家庭科の存在意義と 家庭科教師

家庭科は、子ども達が今の生活
に気づき、これからの生活を築く
ための学習を行う教科であり、そ
のために必要な“知”を獲得する
学びが家庭科である。つまり、家
庭科の学びは、学校の授業時間だ
けでは完結しない学びであり、実
生活に反映され意識や行動様式の
変容を喚起する啓発的な学びが、
家庭科の学びである。

このように家庭科は私的生活を
学習対象としている。しかし、学
校をはじめ保護者も、目先の受験
等にとらわれ、家庭科の存在を軽
視する傾向があるように思う。生
活は生きるための基盤であり、一

生つづくものである。多くの人が
“生活は大事”と思えるようにな
るために、当講座を築立った家庭
科教師は地道に努力していると拝
察する。そのような卒業生を、私

平成二十二年 度

弘前大学教育学部・同窓会懇談会

十二月八日（水）午後四時より

弘前大学五十周年記念会館会議室
にて、平成二十二年度の教育学部
と同窓会との懇談会が開催された。

学部からは昆学部長はじめ、教官・
職員十三名が、同窓会からは鈴木
会長以下十六名が出席した。

担当の先生方から現況等の報告
があり、その後質疑応答がなさ
れた。

◎教育学部の現況について

- 一 教育学部校舎改修について
 - 二 新入試制度について
 - 三 教育学部ホームページにつ
いて
 - 四 大学院教育学研究科の現況
について
 - 五 就職状況について
 - 六 附属学校園の現況について
 - 七 その他
- 以上の項目について、昆学部長、
伊藤副学部長、戸塚入試広報委員
長、宮崎就職支援委員長、小山附
属特別支援学校長の各先生方から
説明があった。
- ◎同窓会から教育学部への要望・
質問について
- 一 懇談会開催日の曜日につ
いて

たち教員は、誇りに思うとともに、
これからも支援していきたいと思
っている。

◎質疑応答・意見交換の内容

最初に、マスコミ等で話題にな
っている大学の評価については、
教育学部としては不本意であるが、
今は細目標を立てて評価アップに
つなげているとのことでした。

また、同窓会としては、今後会
員減少を食い止めるために、具体
的な魅力ある方策を立てる必要が
あるのではとの意見も出された。

現況報告の中では、二十三年度
から入試制度が大幅に変わるこ
とから、小学校教員を目指してい
る学生が現場に出た時、生徒指導上
の問題や全教科の指導で困らない
のかといった危惧する発言もあつ
た。卒業後の進路状況については、
厳しい社会情勢の中、教員以外に
企業や銀行、公務員といった就職
先があげられていた。

今回、同窓会ホームページが立
ち上げられたことにより、日本各
地に広がる同窓生の心の交流が温
かく育まれることを願っている。

懇談会后、参会者と事務局が一
堂に会して和やかな雰囲気の中で、
懇親会が行われた。



定時総会報告

平成二十二年
度
弘前大学教育学部同窓会

平成二十二年度の定時総会は、平成二十二年六月五日(土)午後二時から弘前パークホテルにおいて開催されました。当日は会長以下二十四名の役員(会長、副会長、会計監査、各支部長、支部評議員、常任委員)が出席しました。

岡元淳一氏(弘前市)を議長に選出し、事務局から提出された議案を審議しました。二十一年度の決算報告や会計監査報告で記述の間違い等が指摘され訂正が行われました。会則の審議では第四条、第五条、第六条、第九条に変更がありました。「会計監査」が「監事」に改正されました。

その他で会報「三十一号」の中野先生の文書の中に二カ所、印刷業者の誤植を事務局で見落として印刷にかけてしまい、中野先生に多大なご迷惑をおかけしたことへの謝罪がありました。

二十二年度の予算案では同窓会のホームページ作成が認められ、二十二年十二月から弘前大学(教育学部を含む)のホームページ上でみる事が出来ます。会費の納入状況は相変わらず低いので、高める方策について意見が交わされました。

また、二年に一度の役員改選が行われ、木村清之助会長が退任し顧問に就任、新会長に鈴木弘氏(弘前市)を選出しました。二十二年度役員の欄を参照してください。総会后、同じ弘前パークホテルにて、太田事務局長(昆学部長の代理)をお迎えし、懇親会が催されました。

平成 21 年度決算

(21.4.1~22.3.31)

○収入の部

	21 年度予算	21 年度決算	備 考
会 費	969,160	969,160	61人×16,000円-手数料等
繰 越 金	65,014	65,014	
繰 入 金	850,000	850,000	定期預金
雑 収 入	500	67,236	利子その他(総会会費・祝儀)
計	1,884,674	1,951,410	

○支出の部

	21 年度予算	21 年度決算	備 考
総 会 費	130,000	120,000	総会
評 議 会 費	18,000	18,000	旅費を含む
支 部 活 動 費	360,000	360,000	40,000円×9 支部
通 信 費	30,000	24,180	全学同窓会・会報郵送代
就 職 対 策 費	300,000	300,000	他就職活動補助
教育開発活性化経費	200,000	200,000	教育フェスティバル支援経費
特別対策経費	150,000	150,000	県教委との連絡協議会・県小中学校長との連絡協議会
社会教育主事講習経費	0	0	当番大学としての講習運営費
事 務 経 費	50,000	50,000	事務用品・通信費
会 報 印 刷 費	220,500	220,500	あすなろ 31 号
全学同窓会費	192,000	192,000	240人×0.8×1,000円
事 務 局 費	80,000	100,000	会長会議諸費・事務局活動費等
雑 収 入 費	154,174	76,899	学部との懇談会等
計	1,884,674	1,811,579	

1,951,410-1,811,579=139,831 残額139,831円は次年度へ繰り越し

平成 22 年度予算

(22.4.1~23.3.31)

○収入の部

	21 年度予算	22 年度予算	備 考
会 費	969,160	1,280,000	80人×16,000円
繰 越 金	65,014	139,831	
繰 入 金	850,000	800,000	みち銀定期預金から
雑 収 入	500	500	利息他
計	1,884,674	2,220,331	

○支出の部

	21 年度予算	22 年度予算	備 考
総 会 費	130,000	130,000	総会
評 議 会 費	18,000	18,000	旅費を含む
支 部 活 動 費	360,000	360,000	40,000円×9 支部
通 信 費	30,000	30,000	全学同窓会会報等郵送通信費
就 職 対 策 費	300,000	300,000	他就職活動補助
教育開発活性化経費	200,000	200,000	教育フェスティバル支援経費
特別対策経費	150,000	200,000	県教委との連絡協議会・県小中学校長との連絡協議会
社会教育主事講習経費	0	0	
事 務 経 費	50,000	100,000	事務用品・通信費
会 報 印 刷 費	220,500	220,500	あすなろ 32 号
全学同窓会費	192,000	192,000	240人×0.8×1,000円
事 務 局 費	80,000	80,000	会長会議諸費・事務局活動費
雑 収 入 費	153,694	389,831	学部との懇談・卒業祝金等
計	1,884,674	2,220,331	

事業計画

1. 同窓会費納入依頼
2. 会計監査会
3. 平成 22 年度総会
4. 同窓会・教育学部懇談会
5. 会報「あすなろ 32 号」発行
6. 弘前大学卒業式・祝賀会
7. そ の 他

特別会計基金

<青森銀行定期預金関係>
 6,861,679+ 4,822=6,866,497円(利 息)
 6,866,497-850,000=6,016,497円(平成21年度予算へ)

<みちのく銀行定期預金関係>
 6,621,950+ 10,524=6,632,474円(利 息)
 平成 22 年度予算へ 800,000円を繰り入れる

平成21年度庶務報告

21. 3. 同窓会費納入依頼
21. 5. 30 会計監査会
21. 6. 7 弘前大学創立60周年記念式典
21. 6. 13 平成 21 年度総会
21. 6. 24 教育学部旧校舍跡地標柱設置
21. 12. 2 同窓会・教育学部懇談会
22. 3. 7 会報「あすなろ 31 号」発行
22. 3. 24 弘前大学卒業式・祝賀会

平成二十二年 度 役 員

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 名譽会長 | 昆 正博 (学部長) |
| 顧問 | 齋藤 善三 (弘前市) |
| 顧問 | 木村清之助 (弘前市) |
| 顧問 | 鈴木 年弘 (弘前市) |
| 顧問 | 奈良 年永 (青森市) |
| 顧問 | 佐々木 誠 (八戸市) |
| 顧問 | 相馬 正栄 (平川市) |
| 顧問 | 工藤 睦男 (弘前市) |
| 顧問 | 岡元 淳一 (弘前市) |
| 顧問 | 笠島 明 (青森市) |
| 監 事 | |
| 支 部 長 | |
| 1. 弘前・中郡支部 | 笹森 義男 (弘前市) |
| 2. 黒石・平川・南郡支部 | 横山 岩雄 (藤崎町) |
| 3. 五所川原・北郡支部 | 田中 高志 (斗川小) |
| 4. つがる・西郡支部 | 内山 博文 (森田小) |
| 5. 青森・東郡支部 | 奈良 年永 (青森市) |
| 6. 八戸・三戸郡支部 | 澤田 明久 (八戸市) |
| 7. 三沢・十和田・上北郡支部 | 廣野 雅美 (野辺地町) |
| 8. むつ・下北郡支部 | 宮木 正信 (下北教育事務所) |
| 9. 弘前大学教育学部支部 | 葛西 敦子 (教育学部) |
| 評 議 員 | |
| 1. 弘前・中郡支部 | |
| 松田千代治 (弘前市) | |
| 前田 幸子 (弘前市) | |
| 伊藤 學 (弘前市) | |
| 高木 邦雄 (弘前市) | |
| 小山 順造 (弘前市) | |
| 2. 黒石・平川・南郡支部 | |
| 秋田 豊 (弘前市) | |
| 栗林 欣一 (平川市) | |
| 花田 幸三 (弘前市) | |
| 稲葉 正樹 (平川市教委) | |
| 山内 孝行 (上十川小) | |
| 3. 五所川原・北郡支部 | |
| 齋藤 光正 (弘前市) | |
| 成田 徹夫 (五所川原市) | |
| 竹浪 誠也 (中央小) | |
| 4. つがる・西郡支部 | |
| 屋敷 政勝 (つがる市) | |
| 高橋 範隆 (向陽小) | |
| 野崎 正人 (つがる市) | |
| 木村 道浩 (森田小) | |
| 尾崎 修一 (修道小) | |
| 5. 青森・東郡支部 | |
| 吉田 秀一 (青森市) | |
| 西館 暁子 (青森市) | |
| 須藤 正努 (青森市) | |
| 相澤 正雄 (青森市) | |
| 齋藤 キヨ (青森市) | |
| 6. 八戸・三戸郡支部 | |
| 高橋 信夫 (八戸市) | |
| 齋藤 正栄 (三戸郡) | |
| 築瀬 真知雄 (八戸市) | |
| 尾崎 官一 (石鉢小) | |
| 千葉 力久 (八戸市) | |
| 佐々木 修 (長者小) | |
| 乙山 廣政 (白鷗小) | |
| 7. 三沢・十和田・上北郡支部 | |
| 岩田 繁雄 (十和田市) | |
| 梅田 真規 (六戸町) | |
| 山村 義一 (三沢市) | |
| 永瀬 俊明 (十和田市) | |
| 馬場 せつ子 (三沢市) | |
| 川村 正 (三沢市) | |
| 福沢 周治 (十和田市) | |
| 樋口 博昭 (ちとせ小) | |
| 8. むつ・下北郡支部 | |
| 工藤 魏 (むつ市) | |
| 太田久美子 (正津川小) | |
| 9. 弘前大学教育学部支部 | |
| 村山 正明 (教育学部) | |
| 平岡 恭一 (教育学部) | |
| 小林 央美 (教育学部) | |
| 安藤 智史 (附属小) | |
| 野呂 徳治 (実践センター) | |
| 10. その他の地区支部 | |
| 常任委員 | |
| 葛西 恒雄 (弘前市) | |
| 松田 照江 (弘前市) | |
| 角野 君代 (高杉小) | |